

## 貝類（淡水産）

淡水域では新たにイシガイ、フネドブガイ、ミズコハクガイを選定した。イシガイは芦田川水系やその用水路において、ある程度の個体数は確認されるが、30年前と比較して、近年、個体数の減少が顕著であることから準絶滅危惧とした。本種はスイゲンゼニタナゴの産卵母貝として確認されていることから、本種の減少はスイゲンゼニタナゴの個体数にも影響しているのではないかと考えられる。

今回の見直しで、県内に生息するイシガイ科全種（ヌマガイ類を除く）が選定されたことになる。フネドブガイの県内生息地は3か所のみで、単発的であることから情報不足とした。今後、在来種であればランクアップする可能性は大きいですが、国内移入種であれば選外の可能性もある。また、ミズコハクガイの情報は県内で2件のみであることから情報不足とした。トンガリササノハガイは琵琶湖の固有種であるササノハガイの亜種とされていたが、最新の研究で同種とされたのでササノハガイとした。マルタニシとマメタニシは新カテゴリーに準拠した。一方、マシジミはタイワンシジミ類と遺伝子が区別できないことが解り、縄文以降に渡来した外来種ではないかと考えられるようになったので選外とした。

（内藤順一・中西 毅）

### 貝類（淡水産）選定種

#### 絶滅（EX）

- 1 ミヤイリガイ

#### 絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

- 1 カワシンジュガイ
- 2 オバエボシガイ

#### 絶滅危惧Ⅱ類（VU）

- 1 ササノハガイ
- 2 ニセマツカサガイ

#### 準絶滅危惧（NT）

- 1 マツカサガイ
- 2 カタハガイ
- 3 イシガイ
- 4 オオタニシ
- 5 マルタニシ

#### 情報不足（DD）

- 1 マメタニシ
- 2 フネドブガイ
- 3 ミズコハクガイ
- 4 モノアラガイ

**ミヤイリガイ 絶滅(EX) EX**

*Oncomelania hupensis nosophora* (Robson,1915)

新生腹足目 イツマデガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: EX

広島県 2003: EW

概要	日本住血吸虫の中間宿主であることが発見されて以降、各地で撲滅作戦が行われ、その結果、山梨県と静岡県、千葉県に限られた地域に在来個体が残っている。本県では福山市神辺町で撲滅作戦が実施され、1973年に最後の7個体が確認されて以降、本種は確認されておらず、絶滅した。カタヤマガイとも呼ばれることがあるが、地域名の「片山」が由来である。殻高7mmの細長い巻貝で、縫合は深く、殻は濃い黄褐色で、口唇は黒く縁どられるのが特徴である。水田や用水路などの浅い水底が生息場所である。
生息・生育状況	「片山」地域から発見された貝が日本住血吸虫の中間宿主であることが解明されて以降、撲滅作戦が実施された。1918年から生石灰が散布され、1948年には石灰窒素に切り替えられ、1979年まで実施された。また、用水路は1950年からコンクリート化され、1978年まで実施された。その結果、1969年に2個体、1971年に1個体、1973年に非感染個体7個体が確認されて以降確認されていない。1981年、広島県は「片山病流行終息宣言」を出し、「御下問奉答片山病撲滅組合」を解散している。また、1990年には、山梨・広島・岡山・福岡・佐賀の日本住血吸虫症の発症がある町村長による「片山病撲滅対策推進連絡協議会」も解散された。
存在を脅かす要因・保全の留意点	人間による駆除圧力(生石灰・石灰窒素の散布と用水路のコンクリート化)
特記事項	本種は日本住血吸虫の中間宿主であり、ミヤイリガイは日本住血吸虫の中間宿主であることを発見した宮入慶之助に由来する。日本住血吸虫が起こす症状の多くは典型的な風土病であり、この風土病は特定の地域に存在することは知られていたが、その原因がミヤイリガイであることは不明であった。別名「カタヤマガイ」の名称があるが、この貝の撲滅作戦の地域が福山市神辺町片山であったことに由来する。
産地情報	なし

佐藤弘之 1980. 福山の動物. 福山の自然(福山文化財協会編), p. 147-182. 福山.

田中 寛 2005. 宮入慶之助と中間宿主カイ発見. 住血吸虫症と宮入慶之助—ミヤイリガイ発見から90年—, p. 13-21. 九州大学出版会, 福岡市.

(内藤順一・中西 毅)

**カワシンジュガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Margaritifera laevis* (Haas, 1910)

イシガイ目 カワシンジュガイ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	全北区の北部に分布する氷河期の遺存種である。日本列島では本州脊梁部に遺存的な分布をし、北海道では平地でも生息している。本県は小瀬川(大竹市)の個体群が世界の南限に位置し、広島県の天然記念物に指定されていたが、絶滅により、1998年に解除された。現在、北広島町や帝釈峡の個体群は世界の南限に位置する生息地となっている。殻長は4~10cm, 13.5cmまで成長する。幼貝は黄褐色であるが、約3cmを超えると殻は黒色になり、内面は真珠光沢がある乳青白色をしている。
生息・生育状況	西日本では夏季水温が約20℃以下(アマゴ・ヤマメが生息できる水温)の冷水域に生息する。北広島町では圃場整備事業地(標高600m)で33個体が見つかり、生活史が解明され、1,400個体まで増加したが、2017年の芸北豪雨により約800個体が流失した。4月下旬には芸北小学校の児童により、カワシンジュガイの幼生の宿主であるアマゴが放流されている。帝釈川では伏流水が噴出する峡谷(標高400m)に小群を作って生息している。1980年代は絶滅寸前だったが、東城町教育委員会により、アマゴが放流され、2019年の調査では9,651個体が確認されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	「真珠があるかもしれない」と思われ、多くの個体の殻が壊され、死滅した。個体数減少の原因は水温上昇、水質悪化、河川工事、農薬の影響とされていたが、本県ではカワシンジュガイの幼生の宿主であるアマゴが放流されることにより、個体数が増加したことから、主原因は河川にアマゴがいなくなったことが絶滅の要因である。近年はタナゴ類の産卵巣として、密漁されることがある。イノシシ、ヌートリアによる食害も脅威となっている。
特記事項	本種は4月下旬に幼生(グロキジュウム)を放出し、アマゴの鰓に付着できた幼生が約2か月寄生し、約0.5mmに成長したら、寄生生活を終え、底生生活に移行する。アマゴがいなければ個体数は増加しないことがわかった。カワシンジュガイの幼生はアマゴに寄生し、アブラボテはカワシンジュガイの殻の中に産卵するだけであり、片利共生と考えられる。国内希少野生動物種、県指定野生生物種、庄原市天然記念物(帝釈川水系全域)、北広島町天然記念物。
産地情報	庄原市(東城)、北広島町(芸北)

内藤順一 1988. 広島県芸北町におけるカワシンジュガイの繁殖生態. 比和科学博物館研究報告, 27: 7-15. 2 pls.

内藤順一 1991. 南限域におけるカワシンジュガイの生活史(II). 比和科学博物館研究報告, 29: 53-60. 1 pl.

(内藤順一・中西 毅)

**オバエボシガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Inversidens brandti* (Kobelt, 1879)

イシガイ目 イシガイ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	西日本と九州に分布する。やや流れのある砂泥底から砂礫底に生息している。本県では生息個体数はきわめて少なく、往時から個体数が少ないのか、減少して少なくなったのかよくわからない。芦田川(世羅)、可愛川(吉田)から確認され、近年、馬洗川水系の美波羅川(三次市糸井町)から確認されているが、本県の分布域は不連続である。殻長は3~4 cm、殻は厚く、内面は桃白色から白色の真珠光沢をしている。後背縁が後縁に落ち込み、形は歪んだ三角形をしている。
生息・生育状況	本県では可愛川(吉田)と芦田川(世羅)から、それぞれ1~2個体が採集されているが、これらはマツカサガイやトンガリササノハガイを採集した時に偶然確認したもので、個体数はきわめて少ない。2017年、馬洗川水系の美波羅川(三次市糸井町)の用水路から、幼貝が多数確認された。おそらく、用水路は流速が速く、魚類から落下した稚貝にとって、砂底が成長しやすいのではないかと推察される。既知の生息地では確認できなかった。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	可愛川・芦田川・美波羅川の河川勾配は3~5/1000で、本種は緩やかな流れを好むようである。しかし、生息地に農業堰が構築されると、止水環境になり、砂礫底は泥底になり、死滅するのではないかと推察される。河川工事などでは移殖が望まれる。また、本種の幼生(グロキジュウム)が寄生する魚類の解明も急がれる。
特記事項	本種はカワヒガイの産卵巣になったのを確認している。
産地情報	三次市(三次)、安芸高田市(吉田)、世羅町(世羅)

内藤順一 2017. 広島県動物誌資料(44). 比婆科学, 260: 9-18. 3 pls.

内藤順一 1994. 増補・改訂版 広島県の淡水魚. (比婆科学教育振興会編), p.66-67. 中国新聞社. 広島.

(内藤順一・中西 毅)

**ササノハガイ 絶滅危惧 II 類(VU) VU-①, VU-②**

*Lanceolaria oxyrhyncha* (Martens, 1861)

イシガイ目 イシガイ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	三河湾流入河川以西の本州、四国に分布する。ササの葉のような細長い形から和名があり、殻長は6~13 cm、最大18 cmに成長する。県内産は従来、琵琶湖の固有種であるササノハガイの亜種トンガリササノハガイとされていたが、最新の研究で同種とされた。幼貝は茶褐色であるが、5~6 cm以上の殻は黒く、内面には真珠光沢がある。九州の個体群は2019年に別種のキュウシュウササノハガイ <i>Lanceolaria kihirai</i> T. Kondo & A. Hattori, 2019 として新記載された。
生息・生育状況	護岸工事や用水路工事などにより礎石護岸が減少し、U字溝やヒューム管が使われるようになり、生息環境が悪化し、個体数が少なくなった。また、河川勾配の少ない河川には農業堰が多く、堰の内側が止水環境なり、泥が堆積し、生息環境が悪化している。黒瀬川の支流の田津原川は用水路の改修により壊滅した。上下川の橐原用水路は灰塚ダムの構築により絶滅した。沼田川の支流である天井川は河川の浚渫工事により激減している。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	礎石護岸が減少し、U字溝やヒューム管が増加したため、生息環境が悪化し、個体数が減少したと考えられる。用水路は農繁期には水が溜められるため、止水域となり、生息環境が悪化する。一方、農閑期には安全のため、また、支出を軽減するために取水されず、死滅する個体を多く見かける。生物多様性の観点から、年間の通水が望まれる。本種の幼生(グロキジュウム)が寄生する魚類が特定されず、積極的な保護が困難である。移殖などの措置が望まれる。
特記事項	本県の個体の変異は大きく、黒瀬川や可愛川の個体の中には後縁が大きく反り返る個体が見られる。本種は大きく成長してもタナゴ類の産卵巣としては役に立っていないようだ。産卵された個体をみたことがない。近年、天井川では特定外来種のヌートリアによって被害されていることが報告されている(内藤 2016)。
産地情報	呉市(呉)、三原市(三原)、福山市(福山、神辺、新市)、三次市(三次、甲奴、作木、吉舎、三良坂、三和)、庄原市(庄原)、東広島市(黒瀬)、安芸高田市(吉田、八千代、美土里、高宮、甲田)、世羅町(世羅、甲山)

Kondo, T., Hattori, A. 2019. A new species of the genus *Lanceolaria* (Bivalvia: Unionidae) from Japan. *VENUS*, 78: 27-31.

内藤順一・田村龍弘 1989. 広島県の淡水二枚貝の分布記録. 比婆科学, 144: 13-19. 3 pls.

(内藤順一・中西 毅)

**ニセマツカサガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②**

*Inversiunio yanagawensis* (Kondo, 1982)

イシガイ目 イシガイ科

環境省: VU

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	近畿西部, 四国, 九州に分布する。マツカサガイに酷似するが, 殻厚がマツカサガイより厚く, 前縁部があまり尖らない, 殻長は4~7 cmで黒色, 内面は白から淡桃色の真珠光沢を呈する。マツカサガイより厚みが大きく, ずっしりとしている。1982年に記載された新種で, マツカサガイと区別されていない生息地が多いと推察される。本種の幼生(グロキジュウム)には鈎があるが, マツカサガイの幼生には鈎はない。
生息・生育状況	天井川や芦田川では水質が悪化し, 個体数が減少し, また, 本種の幼生(グロキジュウム)が寄生する淡水魚も個体数が減少している。天井川では浚渫工事により, 砂泥とともに放棄され, 壊滅した。本種は少し流れがある砂礫底に生息するが, 河川勾配の少ない河川では農業堰が多く造られ, 堰の内側は止水環境となり, 泥が堆積し, 生息環境が悪化し, 死滅している河川が多くみられる。最近, 西城川水系の川手用水路(庄原)などで良好な生息地が報告された(内藤 2016)。
存在を脅かす要因・保全の留意点	コンクリート護岸や三面コンクリート用水路・U字溝用水路により, 生息環境が悪化している。タナゴ類の産卵巣としてネット通販されており, 河川に放棄されると遺伝子汚染が懸念される。用水路を管理される農家により, 4月と7月に泥と一緒に泥上げが行われている。用水路の改修では, 砂や小礫が溜まる柵を埋め込み, 生息環境を再現することが望まれる。また, 用水路は多くの生物を保全するために, 年間通しての通水が望まれる。本種の幼生(グロキジュウム)が寄生する魚類が特定されず, 積極的な保護が困難である。
特記事項	近年, 天井川では特定外来種のヌートリアによって食害されていることが報告されている(内藤 2016)。アブラボテやヤリタナゴ・スイゲンゼニタナゴなどの絶滅危惧種を保全するためにも, 本種の個体数を減らさないことが大切である。アブラボテ・ヤリタナゴ・カネヒラは産卵巣として利用していることが確認されている。
産地情報	呉市(呉), 三原市(三原), 福山市(福山, 新市), 三次市(三次, 布野, 作木, 三良坂), 庄原市(庄原), 東広島市(黒瀬), 安芸高田市(吉田, 高宮), 世羅町(世羅)

内藤順一 2016. 広島県動物誌資料(41). 比婆科学, 257: 1-12. 5 pls.

内藤順一・田村龍弘 1989. 広島県の淡水二枚貝の分布記録. 比婆科学, 144: 13-19. 3 pls.

(内藤順一・中西 毅)

**マツカサガイ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b**

*Pronodularia japonensis* (Lea, 1859)

イシガイ目 イシガイ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	北海道・本州・四国・九州に分布し, 河川の砂礫底に生息する。殻長は20~60 mm, 黒色で, 表面には松かさ模様がある。幼貝は茶褐色で松かさ模様が顕著であるが, 老成すると不明瞭な個体も散見される。内面は白く, 真珠光沢をしている。本種の幼生(グロキジュウム)には鈎はないが, 酷似種のニセマツカサガイの幼生には鈎がある。アブラボテ・ヤリタナゴ・カネヒラは産卵巣として利用している。
生息・生育状況	天井川や芦田川では水質が悪化し, 個体数が減少している。また, 本種の幼生(グロキジュウム)が寄生する淡水魚も水質の影響で個体数が減少している。天井川では浚渫工事により, 砂泥とともに放棄され, 生息地が壊滅した。本種は少し流れがある砂礫底に生息する。しかし, 河川勾配の少ない河川では農業堰が多く造られ, 堰の内側は止水環境となり, 泥が堆積し, 生息環境が悪化し, 死滅している河川が多くみられる。最近, 西城川水系の川手用水路(庄原)などで良好な生息地が報告された(内藤 2016)。
存在を脅かす要因・保全の留意点	コンクリート護岸や三面コンクリート用水路・U字溝用水路により, 生息環境が悪化している。タナゴ類の産卵巣としてネット通販されており, 遺伝子汚染が懸念される。用水路管理のため, 泥上げが行われ, 多くの個体が死滅している。用水路の改修では, 砂や小礫が溜まる柵を埋め込み, 生息環境を再現することが望まれる。また, 用水路は多くの生物を保全するために, 年間通しての通水が望まれる。本種の幼生(グロキジュウム)が寄生する魚類が特定されず, 積極的な保護が困難である。
特記事項	近年, 天井川では特定外来種のヌートリアによって食害されていることが報告されている(内藤 2016)。アブラボテやヤリタナゴ・スイゲンゼニタナゴなどの絶滅危惧種を保全するためにも, 本種の個体数を減らさないことが大切である。
産地情報	呉市(呉), 三原市(三原, 本郷), 尾道市(御調), 福山市(福山, 神辺, 新市), 三次市(三次, 布野, 作木, 吉舎, 三良坂), 庄原市(庄原, 総領), 東広島市(西条, 黒瀬), 安芸高田市(吉田, 八千代, 美土里, 高宮, 甲田, 向原), 熊野町, 世羅町(世羅, 甲山), 神石高原町(神石)

内藤順一・田村龍弘 1989. 広島県の淡水二枚貝の分布記録. 比婆科学, 144: 13-19. 3 pls.

内藤順一 2016. 広島県動物誌資料(41). 比婆科学, 257: 1-12. 5 pls.

(内藤順一・中西 毅)

**カタハガイ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b**

*Obovalis omiensis* (Heimburg, 1884)

イシガイ目 イシガイ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	三河湾以西の本州と九州北部に分布する。マツカサガイを細長くした形をしており、漣状紋様を発現する個体もいるが変異は大きい。殻長は4~8 cm, 成貝の色は黒色であるが、幼貝(1~2 cm)は黄褐色をしている。殻は薄く壊れやすい。擬主歯(蝶番のかみ合わせ)が一つしかないので、片歯貝の和名がある。マツカサガイやトンガリササノハガイよりも流れが緩い砂泥底に生息する。アブラボテ・ヤリタナゴ・カネヒラは産卵巣として利用している。
生息・生育状況	芦田川では水質が悪化し、個体数が減少している。また、本種の幼生(グロキジュウム)が寄生する淡水魚も減少している。最近、西城川水系の川手用水路(庄原)などで良好な生息地が報告された(内藤 2016)。黒瀬川の支流の田津原川は用水路の改修により壊滅した。上下川の橈原用水路は灰塚ダムの構築により絶滅した。可愛川水系は個体数が多い。三篠川では個体数は多くないが、アブラボテやヤリタナゴの産卵巣となっていると思われるので、保全されたい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	コンクリート護岸や三面コンクリート用水路・U字溝用水路により、生息環境が悪化している。タナゴ類の産卵巣としてネット通販されており、遺伝子汚染が懸念される。用水路を管理される農家により、泥上げが行われ、多くの個体が死滅している。用水路の改修では、砂や小礫が溜まる柵を埋め込み、生息環境を再現することが望まれる。また、用水路は多くの生物を保全するために、年間通しての通水が望まれる。本種の幼生(グロキジュウム)が寄生する魚類が特定されず、積極的な保護が困難である。
特記事項	近年、天井川では特定外来種のヌートリアによって食害されていることが報告されている(内藤 2016)。アブラボテやヤリタナゴ・スイゲンゼニタナゴなどの絶滅危惧種を保全するためにも、本種の個体数を減らさないことが大切である。
産地情報	広島市(安佐南区, 安佐北区), 呉市(呉), 三原市(三原, 本郷), 尾道市(御調), 福山市(福山, 神辺, 新市), 府中市(府中, 上下), 三次市(三次, 甲奴, 布野, 作木, 吉舎, 三良坂), 庄原市(庄原, 総領, 口和), 東広島市(西条, 黒瀬), 安芸高田市(吉田, 八千代, 美土里, 高宮, 甲田, 向原), 世羅町(世羅, 甲山)

内藤順一・田村龍弘 1989. 広島県の淡水二枚貝の分布記録. 比婆科学, 144: 13-19. 3 pls.

内藤順一 2001. 広島県動物誌資料(10). 比婆科学, 201: 27-32. 3 pls.

(内藤順一・中西 毅)

**イシガイ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b**

*Unio douglasiae nipponensis* Martens, 1877

イシガイ目 イシガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	北海道・本州・四国・九州に分布する。殻長は3~6 cmが多く、最大10 cm 近くなる。後端部は細まり、殻は黒く、内面は白い真珠光沢をしている。幼貝は黄褐色をしている。殻頂付近の顆粒(疣)は幼貝で顕著であるが、成長とともに漣波状に広がり、約3 cmを超えるとなくなる。擬主歯と後側歯は顕著であり、河川・用水路などの砂礫底から砂泥底に生息する。スイゲンゼニタナゴの産卵巣になる。
生息・生育状況	芦田川下流域や福山市街地のクリークに多産し、イシガイ目の中でもっとも個体数が多かったが、30年前と比較すると、1/5~1/10に減少している。幼生(グロキジュウム)が寄生する魚類の減少や水質の悪化により魚類や本種の減少が考えられるが、よくわからない。頻発する出水による砂泥の堆積も生息環境を崩壊させていると考えられる。また、江の川水系の可愛川や馬洗川からも確認されているが、個体数は少ない。一方、太田川・黒瀬川や天井川には生息していないようだ。
存在を脅かす要因・保全の留意点	三面コンクリートやU字溝用水路により、生息環境が悪化している。タナゴ類の産卵巣としてネット通販されており、河川に放棄されると遺伝子汚染が懸念される。用水路を管理される農家により、4月と7月に泥上げが行われ、多くの個体が死滅している。本県や岡山県ではヌートリアによる食害が確認されている。用水路の改修では、砂や小礫が溜まる柵を埋め込み、生息環境を再現することが望まれる。また、用水路は多くの生物を保全するために、年間通しての通水が望まれる。
特記事項	芦田川水系では本種がスイゲンゼニタナゴの産卵巣として利用されていることが報告されている。条例指定種のスイゲンゼニタナゴを保全するためにも、本種の保全は重要である。
産地情報	三原市(三原, 本郷), 福山市(福山, 神辺, 新市), 府中市(府中), 三次市(三次, 甲奴, 布野, 作木, 吉舎, 三良坂), 庄原市(総領), 安芸高田市(八千代, 美土里, 高宮)

内藤順一・田村龍弘 1989. 広島県の淡水二枚貝の分布記録. 比婆科学, 144: 13-19. 3 pls.

内藤順一 2016. 広島県におけるヌートリアによる淡水二枚貝への加害例. 比婆科学, 257: 13-21. 4 pls.

(内藤順一・中西 毅)

**オオタニシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b**

*Cipangopaludina japonica* (Martens, 1860)

新生腹足目 タニシ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	本州から九州に分布し、朝鮮半島・中国大陸にも分布する。日本産淡水巻貝の中では最大で、殻高が7cmに達する。流れの緩やかな河川や用水路、池沼に生息する。殻表は平滑で光沢があり、螺層は膨れるが、螺肋状の弱い角が見られる。近似種にマルタニシがいるが、螺層が角張っていることでマルタニシと区別される。
生息・生育状況	かつては用水路や水田に多産したもののだが、圃場整備事業や用水路工事により、生息地が改変され、個体数が減少している。圃場整備事業は冬季に半年で完了するような規模で行われることが望まれる。近年は孤立個体を見かけることが多いが、本種は雌雄異体であり、移動能力が小さいので、孤立個体は繁殖が難しく、「孤立」は絶滅に繋がりがかねない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	圃場整備事業や用水路工事により、生息環境が悪化している。用水路を管理される農家により、4月と7月に泥と一緒に泥上げが行われ、また、池沼の干し上げにより多くの個体が死滅している。また、用水路は多くの生物を保全するために、年間通しての通水が望まれる。本種は雌雄異体であり、移動能力が小さいので、孤立個体は繁殖が難しく、保全には孤立個体を集め、「群れ」をつくることが望まれる。
特記事項	往時には食に供されていたので、産業振興の目的や、農家の副業として、移入されていたようだ。北広島町西宗では世羅台地から移殖したことを聞き取った(内藤 2014)。
産地情報	広島市(安佐南区, 佐伯区), 呉市(蒲刈), 三原市(三原, 大和, 本郷, 久井), 尾道市(因島, 御調), 福山市(福山, 神辺, 新市), 府中市(府中), 三次市(三次, 甲奴), 庄原市(庄原, 総領, 口和), 東広島市(西条, 黒瀬, 豊栄, 河内), 安芸高田市(吉田), 熊野町, 北広島町(豊平), 世羅町(世羅, 甲山, 世羅西)

紀平 肇・松田征也・内山りゅう 2003. オオタニシ. 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類, p. 37-38. ピーシーズ, 東京.

増田 修・内山りゅう 2010. オオタニシ. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類, p. 52-53. ピーシーズ, 東京.

(内藤順一・中西 毅)

**マルタニシ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b**

*Cipangopaludina chinensis laeta* (Martens, 1860)

新生腹足目 タニシ科

環境省: VU

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	北海道から九州まで分布し、南西諸島は移入種と考えられている。泥深い湿田や土水路、休耕湿地等に生息する。殻高は4cm程度で、最大6cmまでになる。螺層の膨らみは強く、縫合は深い。殻には毛束が抜け落ちた刻点列状の彫刻があり、とくに、柔泥で生活している個体には毛束が残ることがある。緑黒色を呈し、雌雄異体の卵胎生である。近似種にオオタニシがいるが、螺層がオオタニシより丸いことで和名がある。食に供されていたのはおもに本種である。
生息・生育状況	本県では沿岸域に近い平野部の水田や用水路に生息していたと思われるが、市街地化にともない、生息地がなくなり、個体数が減少している。水田はコンバイン導入のために8月中旬から排水され、刈り取り後も乾田のまま放置されることが多く、農業慣行の変化によりおもな生息環境が改変されていると考えられる。近似種のオオタニシと混棲することもあり、区別されていないと考えられ、十分な調査がされないまま、生息地や個体数が減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	コンバイン導入のために排水され、そのまま冬季は放置されている。水田の乾田化や土水路のコンクリート化により夏眠や冬眠に必要な泥深い底質環境の消滅・縮小が大きな減少要因になっている。用水路を管理される農家により、4月と7月に泥と一緒に泥上げが行われ、また、池沼の干し上げにより多くの個体が死滅している。また、用水路は多くの生物を保全するために、年間通しての通水が望まれる。
特記事項	佃煮に供されていたのは本種で、産業振興の目的や、農家の副業として、各地から移入されており、現在の生息地は潜在生息地ではない可能性がある。例えば、北広島町中祖(標高800m)では、新潟県山古志村から(内藤 2015)、北広島町八幡(800m)では園芸品種のスイレンを移植した際、その砂泥に混入して移入され、定着している(内藤 2014)。また、水内川水系麦谷の生息地も移入であることを聞き取った(内藤 2016)。
産地情報	広島市(佐伯区), 三原市(三原), 尾道市(因島, 御調), 福山市(福山), 三次市(三次), 東広島市(八本松, 黒瀬), 北広島町(芸北), 世羅町(世羅)

紀平 肇・松田征也・内山りゅう 2003. オオタニシ. 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類, p. 37-38. ピーシーズ, 東京.

増田 修・内山りゅう 2010. オオタニシ. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類, p. 52-53. ピーシーズ, 東京.

(内藤順一・中西 毅)

**マメタニシ 情報不足(DD) DD-a, DD-b**

*Parafossarulus manchouricus japonicus* (Pilsbry, 1901)

新生腹足目 エゾマメタニシ科

環境省: CR

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	関東以西の本州・四国・九州に分布し、ため池・水田・用水路・湿地に生息する。また、湧水地に生育する沈水植物などに付着することがあるが、多くは、泥底で見かけることが多い。殻高は 15 mm 以内で、日本に分布するタニシの中では小型である。殻は半透明な象牙色であるが、生きている時は藻類などが付着しているため黒緑色に見え、他のタニシ類の幼貝と区別されていないようだ。螺層にはレール状の螺肋が顕著であることで、他のタニシ類の幼貝と区別される。
生息・生育状況	杉原(1979)が本県に分布していることを記録して以降、生息地や個体が確認されていない。おもな生息環境は平野部の水田やため池であるが、そうした環境は市街地化され、生息環境が消滅した。また、農薬や排水などによる水質の悪化や土壌汚染も影響していると考えられ、気付かないまま、絶滅したのではないかと考えられる。本県のレッドデータブック改訂版(2003)や第3版(2011)の調査でも確認されず、第5版時には絶滅の可能性が大きい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	沿岸域にある平地の水田やため池が埋め立てられ、生息環境が消滅した。再確認される前に絶滅した可能性が高い。
特記事項	肝吸虫の第一中間宿主となる。
産地情報	福山市(神辺)

杉原弘人 1979. 日本産マメタニシの研究(1)-日本産マメタニシの外部形態-. 関西大学社会学部紀要, 10(1): 57-111.

福田 宏 2020. マメタニシ. 岡山県版レッドデータブック 2020, p. 386. 岡山県野生動物植物調査検討会. 岡山.

(内藤順一・中西 毅)

**フネドブガイ 情報不足(DD) DD-a, DD-b, DD-c**

*Anemina arcaeformis* (Heude, 1877)

イシガイ目 イシガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	中国・沿海州・朝鮮半島に分布し、国内では北海道・本州・四国に分布し、九州にも分布していると思われる。殻長は 5~10 cm で、殻厚(ふくらみ)はヌマガイより厚く、マルドブガイほど膨れない。殻頂がヌマガイ類と比較して、ほぼ中央にあることで区別される。殻は薄く、擬主歯・後側歯はない。殻は黒緑色を呈し、成長脈が顕著である。なお、最新の研究では、日本に生息するフネドブガイ属は在来 2 種(九州産と本邦産)と国外外来 1 種の 3 種である可能性が指摘されており、広島県産は九州と同種の可能性が示唆されている。
生息・生育状況	近藤・他(2013)は御調町丸門田の用水路で確認し、内藤(2015)は世羅町田打のため池から確認し、内藤(2016, 2017)は北広島町の樽床貯水池(聖湖)の流入口で確認している。御調町や世羅町の個体は殻長 5~6 cm で、北広島町の個体は 10 cm を超える個体ばかりで小さな個体がいなかった。外部形態等から、御調町と世羅町の個体群は在来種で、北広島町の個体群は外来種の可能性が高い。御調町と世羅町では湧水が豊富な局所のみが生息しており、下流の幹線用水路や河川には生息していないことから湧水環境が生息条件の可能性が高いが、既知の生息地が少なく県内の分布状況や生息条件の詳細は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	御調町の生息地は圃場未整備地区の小規模土水路できわめて脆弱な環境に限定的に生息していることから生息環境の保全が望まれる。また、将来的な耕作放棄による水路環境の悪化・消滅も脅威である。御調町では用水路の泥上げ作業で、泥と一緒に農道に放置され、多くの個体が死滅している。北広島町聖湖では水位が下げられ、干上がったところをヌートリアが捕食していた。池干し・溝干しは冬季に行われることが望まれる。また、個体は早めに水域に戻す配慮がほしい。
特記事項	御調町の個体群の幼生(グロキジュウム)はドジョウとドンコに、世羅町産はドジョウ、メダカ、ドンコに寄生することが確認されている。岐阜県産ではヌマムツ、カワヨシノボリ、シマドジョウ類、モツゴ等に幼生が寄生し変態して稚貝に成長することが知られているが、ドジョウは幼生が脱落して成長しないことが確認されており、広島県産と繁殖生態が異なる可能性がある。北広島町(聖湖)にはメダカやドンコは生息せず、大きな個体しか生息していないので、移入種の可能性が高い。
産地情報	尾道市(御調)、北広島町(芸北)、世羅町(世羅)

近藤美麻・中西 毅・秋山吉寛・伊藤健吾・千家正照 2013. 広島県初記録の淡水二枚貝フネドブガイ *Anemina arcaeformis*. 比婆科学, 246: 7-13.

Mio Kondol, Kengo Ito, Masateru Senge 2015. Host Fish Species for Glochidia of *Anemina arcaeformis* Revealed by Artificial Infection Experiment VENUS, 73 (3-4): 127-136.

(内藤順一・中西 毅)

ミズコハクガイ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

*Gyraulus soritai* Habe, 1976

異総目 ヒラマキガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	関東・北陸以西に分布し、湧水湿地・山際の水田などに生息している。池沼では挺水植物の水際や浮葉植物の葉裏に、湿地などでは枯葉などに付着し、湧水時には枯れた植物の中に潜っている。殻長は2~4 mm, 円盤状で、螺塔がやや膨らんでいるのでヒラマキミズマイマイと区別される。体層底面の膨らみは弱く、広く深く窪む。外観は淡茶褐色をしており、陸棲貝のコハクガイに類似しているためこの和名がある。
生息・生育状況	2019年に久井町の湿地で初めて確認され(内藤 2020), 2020年にも同湿地で生体が確認された。また、6月には久井町筋原と竹原市田万里町の湿地でも生体が確認されたが(丸山 2020), 個体数はきわめて少ない。湿地が本種の適地かどうかよくわからないので、個体数が少ないのかもしれない。本県では生息地や生息環境の調査が早急に望まれる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	本県ではどのような地域に分布し、どのような環境に生息しているのか、よくわかっていない。
特記事項	湿地で調査していた時に、偶然に確認されたので、周辺地域の湿地や水田の水路を調査したが、生息密度はきわめて低かった。視点を変えて生息地を探さなければいけない。
産地情報	竹原市, 三原市(久井)

内藤順一 2020. 広島県動物誌資料(50). 比婆科学, 269: 9-17. 2 pls.

丸山優子 2020. 広島県三原市において近年確認された陸淡水棲貝類3種について. かいなかま, 54: 25-30.

(内藤順一・中西 毅)

モノアラガイ 情報不足(DD) DD-a

*Radix auricularia japonica* Jay, 1857

異総目 モノアラガイ科

環境省: NT

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	全国に分布し、普通種と考えられていたが、用水路などの改変により、生息環境が減少・劣化し、個体数が減少している。やや富栄養化した環境に生息し、繁殖期にはゼラチン状の卵塊を水草や用水路の壁面に産み付ける。殻高は約15 mm, 体層が発達し、殻口高は殻高の7~8割を占め、螺塔はきわめて低い。殻は薄く、生貝は外套膜(殻の中)の様子が透けて見える。
生息・生育状況	在来種のヒメモノアラガイ、外来種のハブタエモノアラガイやコシダカヒメモノアラガイと混棲していることが多く、これらは外部形態が似ているため、一見、本種が生息しているように見える。モノアラガイだけを外部形態で抽出するのは困難である。また、同サイズで形態が類似している国外外来種と交雑していると考えられる。純粋なモノアラガイを特定するためには解剖が必要とされている。私たちが気付かないうちに、雑種個体になったり、外来種に置換する可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	水田の埋め立て、道路工事、水質汚染、農薬汚染の他に、近年、放棄水田の増加とともに用水路への通水が行われなくなっている。用水路は多くの生物を保全するために、年間通しての通水が望まれる。
特記事項	本種はヘイケボタルの餌として知られているが、農薬散布や用水路の改変や圃場整備事業によりモノアラガイやヒメモノアラガイの減少がヘイケボタルの減少につながっていると考えられる。
産地情報	府中市(上下), 庄原市(総領)

増田隆志・野上光章 1988. 広島県の軟体動物. 広島生物, p. 247-276. 第一法規, 東京.

平岡喜代典・久家光雄・内藤順一・田村龍弘 1988. 広島市の動植物(陸産および淡水産貝類). 広島市の文化財第39集(広島希少生物調査報告), p. 155-158. 広島市教育委員会, 広島.

(内藤順一・中西 毅)